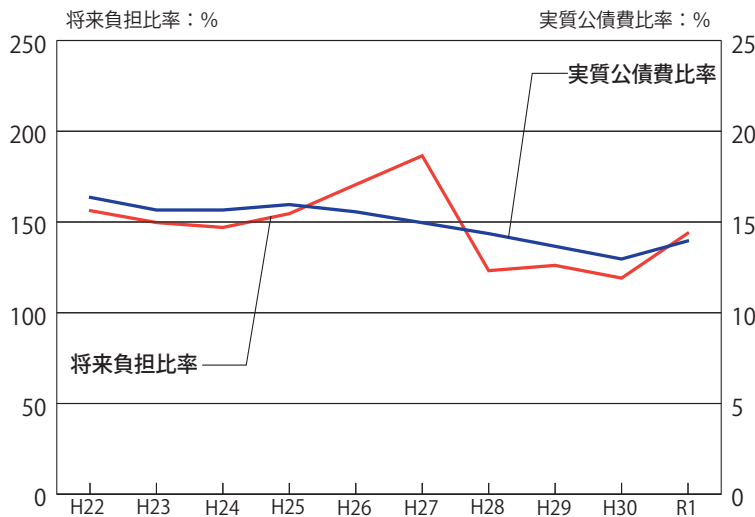


# 財政の健全度をお知らせします

令和元年度決算に基づく健全化判断比率などは、全指標で「健全」の基準内となりました。

※健全度は財政健全化法で、下記の5指標の算定により、「健全」、「早期健全化」（自主的な改善努力での健全化が必要）、「財政再建」（国などの関与による健全化が必要）で評価されます。

指標		算定結果 ( ) 内は前年度数値		早期健全化基準	比率の説明
健全化判断比率	実質赤字比率	— (—)	一般会計が黒字のため、指標化なし。	14.20%	一般会計の赤字額の程度を町の財政規模と比較して指標化し、財政運営の健康度を示すもの。
	連結実質赤字比率	— (—)	一般会計、特別会計、公営企業会計が黒字のため、指標化なし。	19.20%	一般会計、特別会計、公営企業会計の赤字額と黒字額を合算し、町全体の赤字の程度を指標化して財政運営の健康度を示すもの。
	実質公債費比率	13.9% (12.9%)	下水道事業への繰出金の増加などにより、前年度から1.0%増加しました。	25%	一般会計の借入金の返済額と公営企業会計や一部事務組合の借入金の返済額のうち、一般会計からの支出と認められる額の合計を町の財政規模と比較して指標化し、資金繰りの安全度を示すもの。
	将来負担比率	143.9% (119.1%)	地方債現在高の増、基金残高の減等により、前年度から24.8%増加しました。	350%以上	将来、負担すべき額から、町の貯金などを差し引いた額を、町の財政規模と比較して指標化し、今後の財政を圧迫する可能性を示すもの。
資金不足比率		— (—)	町の公営企業は黒字のため、指標化なし。	20%以上	上下水道、下水道など公営企業の資金不足を指標化し、経営の健康度を示すもの。



## 各指標の推移

実質公債費比率は近年、減少傾向でしたが、今後は岩手医科大学附属病院周辺道路整備などの大規模事業に伴い借り入れた町債（借金）の返済により上昇が見込まれるため、経費の圧縮や効率化に努めます。

将来負担比率は、町債借入残高の増加と基金（貯金）残高の減少により上昇しましたが、計画的な事業実施と適正規模の基金残高を確保することに留意し、将来世代の負担を考慮した健全な財政運営に努めます。

## 町債・公営企業債の現在高

町債は一般会計と区画整理事業のための借金で、公営企業債は上下水道事業のための借金です。一般会計では、道路整備や小中学校のエアコン整備などのため、上下水道事業では浄水場の機械設備更新などのために新規の借金が必要となったことから、前年度に比べて増加しています。

会計名	平成30年度末	令和元年度末	増減額
町債(区画整理含む)	129億4,211万円	133億6,016万円	4億1,805万円
公営企業会計	93億3,130万円	90億2,247万円	-3億 883万円
水道	23億3,786万円	23億5,383万円	1,597万円
公共下水道	44億6,173万円	43億2,193万円	-1億3,980万円
農業集落排水	25億3,171万円	23億4,671万円	-1億8,500万円
合計	222億7,341万円	223億8,263万円	1億 922万円

(千円を四捨五入)

▶お問い合わせ 令和元年度決算について詳しくは、役場企画財政課財政係（☎611-2726）へ。